

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 令和 2年 12月 1日

事業所名： カサヨハネ

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
 評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	7			個別のスペースを増やした。	27	1	0	2	体いっぱい使い思い切り活動出来ています。	
	2 職員の適切な配置	4	2	1		23	3	0	4	とても丁寧に対応してもらっています。	職員の数は足りているのでシフトの工夫をする。人数の改善を図りたい。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備	6	1			17	8	1	2		時計を玄関、個室につける。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	6	1		足洗い場、水飲み場を設置した。	28	2		1		
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	3	2	2		/	/	/	/		業務改善についての会議を開き(時間を工夫し月/1回)、PDCAサイクルをつかうことで職員が積極的に参画できるようにする。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	3	4			/	/	/	/		可能であれば考えたい。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	4	2	1	アンガーマネジメント、フォイヤーシュタイン、フェルデンクライスなどの研修を実施した。	/	/	/	/		アンガーマネジメント、フォイヤーシュタイン、フェルデンクライスなどの研修を継続する。他施設の見学(愛ほっと、あけぼの、希望の家)をする
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	6	1		聞き取りアンケート(モニタリング)をすることにした。	27	1	1	1		保護者と面談する機会を作りたい。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	7				30	1	1			具体的な支援内容を工夫する。
	3 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	7				/	/	/	/		個別活動の計画を立てる。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	
適切な支援の提供（続き）	4	6	1		放課後等デイサービスでは、アンケートで、聞き取りをすることができた。	27	1		3	新規の利用者、計画を立て直す利用者の保護者への聞き取りを行い利用者の特性に合った計画を立てる。
	5	5	1	1						会議で話し合い企画する。
	6	6		1			21	2	3	会議で話し合い企画する。
	7	5	1	1						
	8	6	1		朝のミーティングで話し合った。分担表を作り表示することにした。					朝のミーティングで話し合う。分担表を作り各自確認する。
	9	5	2		夕のミーティングで話し合い情報を共有している。					皆がそろって、夕のミーティングで話し合う時間を作り、情報を共有していくことを継続する。
	10	7			実施している。					今後も実施する。
関係機関との連携	11	6	1		実施している。					今後も実施する。
	1	7			月一回の子供支援連絡会を開催している。					月一回の子供支援連絡会を継続して行っていく。
	2				(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施					

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
関係機関との連携 (続き)	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備										
	4 児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	6	1		保育園から小学校への移行時に訪問し情報の共有を図っている。						保育園から小学校への移行時に保育所を訪問し情報の共有を図っていく。小学校の支援会議に参加する。
	5 他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	6	1								就労B型への移行時に施設訪問するなどして情報共有していきたい。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	5		2							参加していきたい。
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供	3	2	2	保育所、学校とは日々の送迎時に交流している。コロナのこともあり児童館への訪問は自粛している。	17	2	1	13	求めています。	保育所、学校とは日々の送迎時に交流していく。支援会議に参加する。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営			4	3						コロナが落ち着けば検討していきたい。
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	7				30	1	2			
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	6	1			30	1		1		
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	7				月一回、ペアレントトレーニングを開催している。	29	1	1	4	親のよりどころになっている。続けてほしい。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標		
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
保護者への説明責任・連携支援（続き）	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	7								対面で話す機会を作る。	
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	7			保護者の必要に応じて、相談に乗った。	30	1	2	1	努めてこちらからもアプローチする機会を作る。	
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	5	1	1		19	2	1	6	気楽に話し合える親の座談会を企画したい。	
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	7			苦情に対して、迅速に対応し、理解していただいた。	18	2	1	7	今後も対応していく。	
	8	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	7			連絡ノートを作った。	23	1	1		子どもが安心して自分の考えが伝えられるようです。	連絡ノートを充実していく。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	7			カサヨハネ通信を月一回発行している。	18	1		8		カサヨハネ通信を充実し、月一回発行する。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	7				26	1		1		
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	7			マニュアルを策定し、玄関に掲示した。	12	2		14		マニュアルを策定し、玄関に掲示していることを、保護者にお知らせしていく。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	7			消火訓練、避難訓練、防犯訓練を定期的実施した。	17			10		定期的実施していることを、通信等でお知らせしていく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
非常時等の 対応（続き）	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	5	1	1	年一回行った。					年一回研修会を継続する。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	3	4		身体拘束はしていない。					身体拘束はしないことを職員全員徹底する。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	5	2							おやつ等気を付けるため、契約時の保護者への聞き取りをし、職員間で情報を共有している。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	3	4		ヒヤリハットを作成した。					ヒヤリハットは作っているが職員間で徹底するようにする。